

宇部市渡辺翁記念会館

所在地 山口県宇部市

建物用途 市民ホール

竣工 1937年

所有者 宇部市長

設計者 村野藤吾

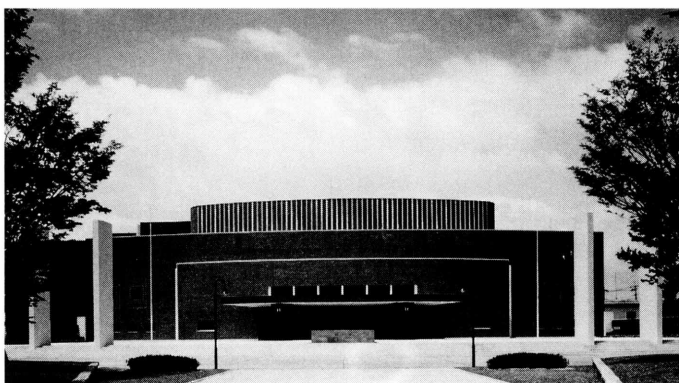
施工者 株式会社高砂工務店

大和建設株式会社

村上建設工業株式会社 株式会社佐々木建設 株式会社中電工 新興電気工事株式会社 富士

管工株式会社 セントラル設備工業株式会社 株式会社シャープ設備

維持管理者 宇部市長



〈審査評〉 宇部市渡辺翁記念会館は、通称宇部市民館として知られている村野藤吾の初期の代表作である。昭和12年に竣工しているので、60年近くを経過している。特に、第二次世界大戦直前の異常なナショナリズムの高揚の中で帝冠様式が主流になりつつあった状況にも関わらず、近代的なデザインで次の時代を先取りした功績は高く評価されているところである。正面のゆるやかに弧を描いた塩焼タイルによる壁面とキャノピー、その前面にひろがるテラスと外部空間の仕切りをしている六本のモニュメント、やわらかくて明るくて優美なロビー空間と無装飾に近い扱いのために緊張感があふれているホール内部等々、現在にいたっても訪れる私達を感動させてくれる。

宇部市発展の中心にあった渡辺裕策翁の遺徳を記念して建設されたものであるが、竣工後は多くの著名な演奏家が国内外から訪れて出演し、その音響効果を高く評価したと伝えられている。このように、建設当初から山口県の地方文化振興の中心施設として活躍したといわれている。大戦後は、数度にわたって改修や増築を加えてきたが、平成5～6年には、市民の大切な文化遺産として後世に伝えるため、機能上のモダンゼーションとデザイン上の当初イメージの維持継続を狙った全面的な改修を行っている。特に、2階バルコニー席の全面的な作り直しや、正面の塩焼タイルの還元焼成タイルでの復元といった困難な課題に挑戦して成功している。全国各地に作られている市民ホール流のものに建て直すという議論があったにもかかわらず、市の英断で最終的に保守、活用することになったことは誠に意義深いことである。当初建設の時も直営工事のような形ですすめられたが、今回の改修工事の施工も地元の工事業者の共同企業体ですすめられた。いわば、宇部市民の深い愛情がこの建築を守り育ててきているといえよう。